読書による共感への影響に関する研究

田鍋　嘉尊
指導教員　日道　俊之

研究背景

読書は作者や登場人物の考えに触れる側面から、他者への共感が強くなる可能性がある。研究から、文学作品を読んだ参加者はノンフィクション作品を読んだ参加者より共感の尺度である RMET が高得点であったことが示された。この研究に日本は含まれていなかったため、フィクションの読書による RMET への影響を、ノンフィクションを読む条件、何も読まない条件と比較する調査が日本で行われた。その結果、短時間の文学作品の読書では、他の条件と比較して RMET は上昇しなかった。この研究では読書内容の理解、読書内容と登場人物に対する共感、その共感による RMET への影響が確認されていない。読書内容が理解されなければ、読書の過程自体の意味が弱くなる。

研究目的

本研究の目的は読書により喚起された共感によって、他者への共感が強くなるかを調べることであった。文学作品を読みその内容に共感すれば、ノンフィクションを読んだ場合と比べて他者に対する共感が向上する、という仮説を検証した。

研究方法

参加者をノンフィクションの文を読むノンフィクション条件とフィクションの文学作品の文を読むフィクション条件に分けた。読書後に内容理解や共感について質問紙に回答してもらい、RMET や共感性を測る IRI を行った。それぞれの群の平均点の差などを分析し、質問紙で調べた共感や内容理解、RMET, IRI などの各変数間の相関を分析した。

分析結果

内容共感と RMET で有意な群間差はみられなかった。フィクション条件では、IRI の同情等の喚起されやすさを示す EC と RMET で他の変数より強い相関がみられた。ノンフィクション条件で内容に対するポジティブ感情と内容への共感・感動で正の相関がみられた。

考察・結論

RMET の結果について、物語への共感の弱さ、RMET の尺度としての妥当性の弱さ、物語読書は共感に影響しない可能性を要因として挙げる。本研究の文学作品は悲しみや不安を含む内容であったため、EC 傾向の強さが共感性に影響した可能性がある。今回みられた相関から、参加者が文学作品をポジティブな内容だと感じた場合、内容への共感・感動が大きくなり、それが RMET に影響を及ぼす可能性が考えられる。